

伝統的設計技術における屋根勾配と平面寸法

ベトナム中部の伝統家屋の設計技術の特質（その1）

日本建築学会計画系論文集 第74巻 第638号/pp.945-954/2009年4月

正会員 林 英昭 君

本論文はベトナムの伝統建築における設計技術を解明した労作である。史資料に限られるなか現地の棟梁に模型制作を依頼し、その過程を記録分析、棟梁のヒヤリングも行い屋根勾配と平面を関係づける設計方法を明らかにした。

この研究によってベトナム中部に北部のそれと異なる独自の設計技術が存在することが実証された。登り梁〈ケオ〉が規定する屋根勾配を〈腋尺〉によってプランと関係づける設計方法である。ベトナムの伝統建築研究における基本的知見が示された。

独特な調査方法を考案し、その有効性を明らかにした点でもすぐれている。本論の研究方法は技術や道具が継承されている限り有効で、たとえ文献や現存遺構が限られていても仮説をつくる上で役立つ。

研究は大規模調査の成果であり、綿密な記録が残されている。ベトナムと状況の似た東南アジア各国における伝統建築の研究や技術の継承に資するところが大きい独創的な研究と言える。